

貧困の子どもが抱えるスピリチュアルペインの把握による 新たな支援の提言

前田 美和子 准教授 (MAEDA, MIWAKO 共通教育部門)

貧困が子どもにもたらす苦しみは、死と隣り合せの状況に置かれた人々の苦しみに等しい。

前田研究室では、貧困家庭の子ども(18歳未満の学齢期の児童、少年)が「スピリチュアルペイン」を感じ得ることについて明らかにすることを目的とした、実態調査と隣接分野の先行調査結果との比較分析に取り組んでいます。

国内では、「スピリチュアルペイン」は主に終末期医療現場や死と隣り合わせの状況に置かれた被災地等において確認される心的苦痛であり、場合によっては身体的な苦痛としても現れるものと理解されています。

一方で海外では、病症との影響関係のみならず、その他の条件、特に貧困が、こうした心的苦痛を深刻化させることについても調査研究が為されており、近年では、貧困等の事情により「スピリチュアルペイン」と分類し得る心的苦痛を感じる人々のあることが報告されています。こうした語義の広がりには、例えば海外のメディアが政治的な問

題を論じる文脈において「スピリチュアルペイン」という語の使用が散見し始めている(“How to Heal the Spiritual Pain of America”, Time, 2016) ことなどからも伺うことができます。日本における「スピリチュアルペイン」の実態及び多様性については、いまだ検討の余地が残されているのです。



稿者は、「生きづらさを感じている子どもたちを、一人でも多く救いたい」、「子どもの内面の苦しみに着目し、その解消の為に手を差し伸べることのできる社会を構築したい」と心から願っています。稿者一人の力で解決するには難しい課題ではありますが、そのための着実な一歩を進めたいとの思いから、上記の研究に着手しました。「スピリチュアルペイン」に対する我が国における理解度と認知度を高め、新たな支援を提供することにより、子どもを取り巻く悪条件を少しずつでも解消したいと考えています。

受託研究のススメ

前田研究室では、企業の皆様とコラボした教育研究活動として、例えば次のようなご要望にお応えすることができます。まずはご相談ください。



「貧困の子どもを抱える心の悩みを解消するためのボランティア活動を企画したい。」

「自立支援ホームや緊急避難場所に暮らす子どもの自立支援を目的とした実践教育プログラムを開発したい。」

「貧困の子どもへの心的苦痛をテーマとした講演会やワークショップを開催したい。」

貧困の子どもが抱える「スピリチュアルペイン」を解消できる新たな対策を提言することにより、〈生きづらさ〉を感じて暮らす子どもを救いたい。